


たんほほ



NO.42
H2.11.30.
一発行—
〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
TCL096
293-8100

自閉症療育セミナー(その二)

理事長 田中 稔

社会福祉法人『三気の会』が主催した療育セミナーの石井聖先生の講演を聞いて『治せないのか?』言った人がいます。

私達の周りに居る自閉症児者で5分間きちんと椅子に座っておれる子は殆どいません。数を数えたり、褒美を与えたり、叱りつけたりする条件をつけないで座わる事が出来るでしょうか。座り続ける事が出来る為には、座っている自分を自分で意識出来てそのレベルが一定の高さで集中され続ける事が必要です。これらの事は総ての日常生活の場面で要求される基本的な事です。この為の意識の訓練をどうすればいいのか?。

また、私達が生活する為の思考

や行動の基本は『言葉』です。あらゆる事が一度頭の中で『言葉』に置き換えられて進みます。

『言葉』やその概念が発達しにくいという障害としての特徴が自閉症にあります。この様な生活の基本となる『言葉』が育っていない自閉症児者の生活行動は感覚的なものにならざるを得ません。パターン化や奇妙な行動やパニック等はそういう障害の特徴から来るものです。私達が(出来るようになった)と言っている事の多くはパターン化された行動です。

生活能力の基本となる『言葉』をどう育てればいいのか?

今回の石井先生の講演はこういう自閉症という障害の基本的なものに対し、自ら考え方を作り上げ、その対応法を工夫しその実践を話

されたものでした。先生とそのスタッフの自閉症児者に対し分かって欲しい、結果を出したいという『熱意』と『真剣さ』には実に感動を覚えます。

先生は自ら実践されているものを一般の家庭や療育の場で使える様なプログラムを作っておられると聞いています。これらのプログラムが一般の場で可能であるかどうかはその熱意と真剣さにかかっていると思います。

『知っている事』と『療育する事』と『生活する事』は各々違います。自閉症という障害は一生涯、どこでどんな生活をしていても療育的働き掛けが必要な障害です。生活の場での実践の為、生活施設を作りたいと話しておられました。石井先生の仕事は広く、長く根を下ろす事を期待しています。



療育シリーズ

鬼のような顔

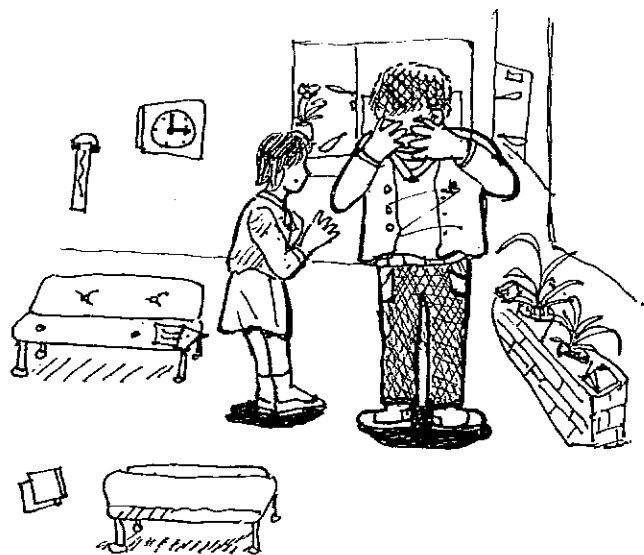
園長 土井尚典

子供と関係を作るためにはまず「受け入れて」あげることが大切だとききます。子供の全てを受け入れてあげることによって、子供は受け入れてくれた人を受け入れるとも言います。なるほど、そうだと思います。

ここで最近三気の里であった例を一つ紹介したいと思います。S指導員が自閉症児のAくんをかかりつけの精神科をもつ病院に通院したとき、待合い室でAくんがパニックを起こしました。SさんはAくんをよくしっていたのでパニックの原因もどうすればすぐ収まるか、パニックが起きていても指示にしたがわせることができる自信をもっていました。すぐに対応していた時にその病院の先生らしい人が出て来られて、「この病院では大声を出してもいいんだよ。泣

きたいときに泣いてもいいんだよ」SさんとAくんの間に割って入られ、「Sさんは離れていて下さい」といわれ、Aくんを慰めてあげられませんでした。Aくんは慰められているあいだ、院内に響き渡るような声で泣いていました。SさんはAくんをジッと見ていました。すると先生はSさんに向かって「Aくんを見てはいけません。あつちを向いててください」と言われました。Aくんは担当の先生の診察が始まってなき止みました。Aくんは体重90kg、Sさんは50kgぐらい。AくんはS指導員が大好きで、いつもくっつき回っています。通院から帰った後は何事もなかったかのように甘えていました。二人の関係は決して悪いとは言えません。S指導員はAくんを受け入れていると思われ、AくんもSさんを受け入れていると思われ、しかし、S指導員はAくんのパニックを病院では認めませんでした。S指導員はAくんにたい

して、「やってはいけないこと・やるべきこと」をはっきりさせ、厳しく指導しています。それ以外は全てAくんを受け入れているといえます。外出中のパニックは、たとえ精神科の病院でもやってはいけないことなのです。Aくんが



パニックを起こしたときSさんはものすごい目付きになっていったんだらうと自分で述懐していました。それで、「向こうを向いてください」と言われたのでしよう。私はS指導員がどんなにつらかったらうと思いました。それでいいんだといいました。やってはいけないことをとめるのに、優しい顔だけではできないのです。苦しい顔・悲しい顔・つらい顔等も優しい顔に映すことができるかもしれません。しかし何が何でも分かってもらわなくてはならないときやぜったいそのことを受け入れられないときは怒りともとれる鬼のような顔になるのだと思います。園生もつらいけれど、職員もつらいのです。職員の辛さと同じ重さで子供がつらいことをくぐって行くからです。

このことが分かると、本当に園生がいておしく、かわいくなるものです。子供の全てが受け入れられるのです。

愛護合宿研修

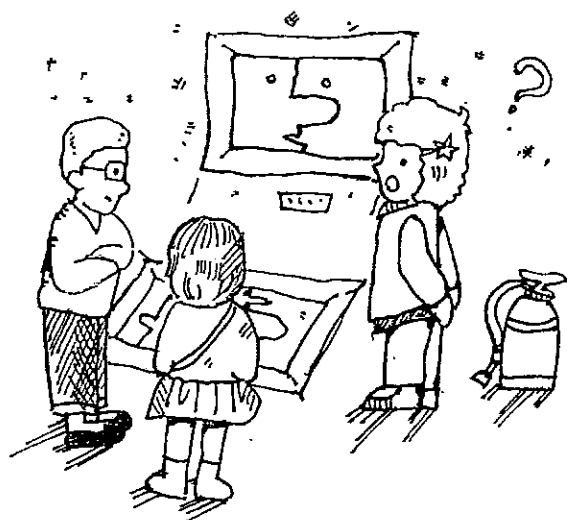
坂本由美子



先月行われた合宿研修会で面白い技法を学びました。問題解決技法演習で「プレイン・ストーリーミング法」を取り入れ、テーマについてより深め合うことが出来ました。

「プレスト法」は、どんな意見が出て来ても、それを批判せず奔放な発想を歓迎し、数多い意見を出すことにより質の良いものが生まれ、又他人の意見に便乗し、これを更に発展させて行くという基本ルールがあり、この技法で次のテーマについてグループ討議をしました。「施設生活を向上させるためには」「入所者の人権を守るためには」のどちらか一つを選び討議しました。技法の面白さに討議もはずみ、内容の濃い研修でした。

合宿研修ということで、各施設の方たちと色々な話しが出来て、こちらも又面白いものでした。他の施設との違いが解り、益々もつて(いい意味で)面白い研修でした。



1 班 ㊦ 気合 ㊦

朝夕の冷え込みが急に激しくなってきたこのごろ、寒がりやさんの多い1班のみんなには過ごしにくい季節の到来です。寒い冬こそ汗を流して体を動かすのが健康には一番！。そこで登場するのが1班の草木染め。熱〜い熱〜い液にエイッと気合と共に手を入れ、布をリズミカルに動かす。そう、このタイミングがうまく染めるコツ！（か、どうかわかりませんが）とにかく20分間こうして布を染め、ひたすら手を動かすこれが結構良い運動になるのです。みんなの努力の甲斐あって染め上がった布もかなり多くなりましたが、これをどうにか製品に化けさせ様とする職員の額にも、そして針を持つ手にも大粒の汗が流れているのであります。

伊石

4 班 う・ん・ど・う

今回は、運動がテーマですが、4班は運動という運動はしていません。しかし、日頃運搬作業や草取り、堆肥の袋詰めなどで体を鍛えています。腰の強さなら負けませんよ。先日行われた運動会の綱引きも堂々優勝する事ができました。他にも、レクリーションで山登りや釈迦院の石段登りにもチャレンジしました。頂上到着まで、個人差があるものの全員完歩する事が出来ました。頑張り屋の皆さんです。しかし、職員の「もう1度行こうか？」という問いかけには皆知らんぷりしていますが・・・

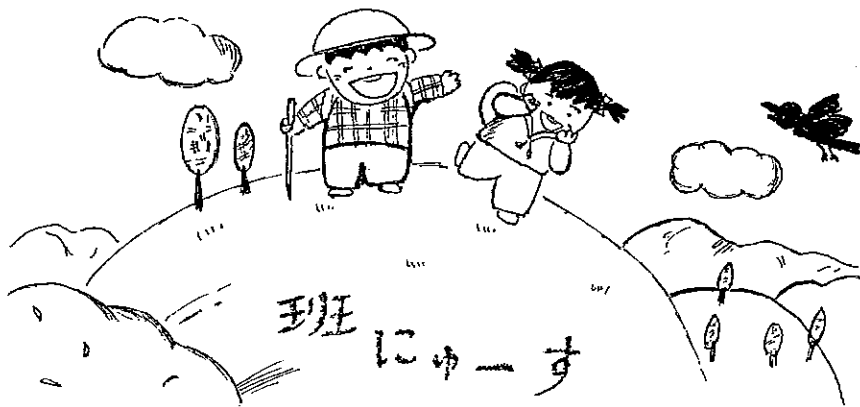
食べ物のおいしい季節、こたつの恋しい季節、丸まる太らないよう、しっかり運動しようね！と自分に言い聞かせる私でした。

山中

5 班 理解と打ち合わせ

秋空と山合の畑にさつま芋堀の手伝いに行く事に決めました。以前より知人を通じて話がありましたので、5班を軸にして頑張る事にしました。せめて先方に迷惑を掛けない程度の作業をしなくてはと思い、まず農家に行き仕事がある手順で行われているか確認すると共に、三つの事を説明し主人と奥様にご理解して頂きました。（第1）に朝のとりかかりの時間が遅い。（第2）作業に対する能力の差と正確とスピード。（第3）賃金の査定の件。特に（第3）に関しては仕事を見て頂いてからという事で当方より依頼しました。翌日畑に10時頃着きましたら既に一仕事終えて、おやつを食べておられましたので、早速私達もお菓子を食べながら自己紹介をしました。終わるやいなや園生のAさんが奥様に向かって『給料はいくらはらうとなー』『正月の小使いにせなんけん』と問い掛けたので一時哑然とされ、私の顔を見るなりにつこりとされ了解、了解とうなずかれて目で合図されました。まさしく先日打ち合わせした緒園生の言動がまともに当たりはたして後1週間程作業の方面はどうなるやら？

砂野



2班 ヤッホー! 八方ヶ岳

11月23日。念願の登山と宿泊計画を実施することになった。天気晴れ、絶好の登山日和、イザ上虎口より八方ヶ岳目指して、早いグループとちょっぴり遅いグループにと別れて、出発。予行演習も下見も行ったもののやはり心配。1時間を越える長丁場、やはりエンストした文ちゃん。しかし、叱咤激励の連続でようやく頂上に、ほっと一安心。園生は、満面の笑顔を浮かべていました。まだ半分と心を鬼にして後は勢いで山を下る。調子いいぞ!ところが浩ちゃん、急に歩けなくなり、東さんにおんぶしてもらって下山。そんなアクシデントの中でも予定よりも随分早く降りることが出来た。うれしくて思わず万才!2度と山なんて行くものかと内心誓っていたのは誰だったか?山を下りて車に乗り込み、今日の宿泊先の植木温泉に向かった。

その夜は大好きなカラオケで喉自慢のさゆりちゃん、久美ちゃん、そして職員。その声に聴きぼれてか、興奮し夜中まであいづち打っていた俊ちゃん。そんな中無事帰った喜びで、私も寝れなかった。

坂井

3班 運動と呼吸

まずは“すのこ”製作について説明します。山から桧を切り出して皮むきをします。それから2種類の太さに製材されます。その板をそれぞれの型枠にはめ一定の長さに鋸で切ります。その板を次に電動カンナで表面をすべすべにします。次にすのこの完成大の型枠にはめ込み釘をうちます。表面にペーパーをかけたら完成です。この工程をみんなで分担しています。この作業はどのポジションも腕を使います。立ち仕事なので足腰、腕と鍛えられます。また、鋸のポジションは押える人との呼吸も大切です。

先日バスハイクでミニ運動会がありました。日ごろ、木工で鍛えているにも拘わらず、綱引では4班中4位でした。敗因はというと…やっぱり“綱引”の呼吸の練習不足かな～…。

P. S. 木工作品は皆様のお陰で完売しました。ありがとうございました。

大塚

「作品展示会」

事務長 末永博美



平成二年十月二十日、二十二日までの三日間、熊本県精神薄弱施設だけの作品展示即売会が開催され、会場は昨年と同じく熊本城内の二の丸公園で、期間中は天候にも恵まれました。

作品展に参加した施設数は、熊本県内の四十七の施設です。三気の里も、勿論出展しました。

そもそも作品展とは、施設に入所している障害者が、人間らしく、普通の暮らしが出来るように、療育、生活、作業等の指導訓練を施設で学び、社会生活に一日でも早く、一人でも多くの方々が参加できる事を、保護者及び施設関係者の思いとし、入所者が一生懸命に作った作品を紹介し、一人でも多くの社会の方々が、理解して貰える事を信じて開催しています。

今回出品した、三気の里の作品や即売品を、各班毎に紹介します。

1班は、園生十一名の基礎訓練班です、今回は、大津の特産物である「さつまいも」に挑戦し、慣れない手つきで、頑張って作り出しました。2班は、園生十一名の基礎訓練班です。三気の里の運動場の脇に、大きな銀杏の木があり、今年もたくさんの実をつけたので収穫し、みんな臭い臭いと言いながら加工し、おいしい「ぎんなん」を出品しました。3班は、園生十二名の作業訓練班です。特に木工作业を中心としており「すのこ」をはじめペン立て等や、昨年好評だった枝豆を出品しました。4班は、園生十二名の作業訓練班です。農耕作業を中心としており年中土いじりをして、農業の専門家がうなづくような、農作物を作り、出品し年々技術の向上をしているようです。5班は、園生二名の作業訓練班です。営繕管理を中心に、何でも挑戦しようとしてお

り、地域の農家よりハウスの草取りや、収穫の手伝いや、民家の庭木の手入れ等をし、今回は、黄色のコスモスの鉢植を販売しました。各班とも年々工夫を凝らし、頑張っています。

開催期間中、販売の手伝いに大塚指導員のお母さんに協力頂いたり、初日には、理事長が駆け付け、ビールのつまみに「ぎんなん」はいかがですかと、言った具合にお客さまに声をかけられ、又保護者の方々にもお手伝いをして頂き有り難うございました。

三気の里の、オリジナルブランドができるように、「ガンバリマス！」



ぼらんていあ通信

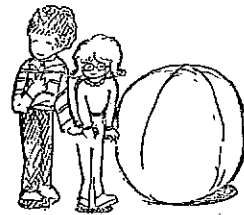
気がつけば「三気の里」職員の妻・ボランティア奮闘記バスハイク編

東 尚美

「だあいじょーぶ！園生と一緒に楽しめばいいんだから！」と新婚5カ月の旦那様に笑顔で肩をたたかれ、生まれて初めてボランティア体験をしたのが10月18日のバスハイクでした。担当になった「新ちゃん」は足が速くて力もち。バスの中でうれしさを押えきれずに跳びはねる新ちゃんに圧倒されて目は点になるし、広い公園でいきなり猛ダッシュされてお弁当をほうり出して後を追ったりもしました。はじめはお互いにおっかなびっくりだったけれど、運動会が終わる頃には私が差し出した手をしっかりと握ってぐんぐん引っ張っていつてくれるようになり、すっかり弟をもった姉の気分です。気が張っていたのか玉転がしを本気でやりすぎたのか帰ったらドッと寝込んで

でしまったけれどもなんと健康的な1日でありました。そして三気の里におじゃまするといつも感心するのですが、よじ登れる位大きな体の園生にも、不安定な心をむきだしにした園生にも体当りで、しかも肉親的な愛情をもってぶつかっていく職員の方々のパワーはすごい！いつか又、お手伝いさせていただきますいね。

食堂営業中



「朝ご飯秘話」

ただ今、調理職員欠員の為、全職員一致団結しておいしい食事しようとして取り組んでいます。特に朝食の準備ではお世話になっていますが……。ここで、幾つかの悪戦苦闘振りを紹介します。

Aさん、朝寝過ごしてしまいご飯が炊き上がらない。ガス釜のスィッチが切れるのを今か今かと待った。炊き上がったと同時に蓋を開けて見たら、そこはブクブクとしていてお粥が出来たと思ってびっくりしたという話。

Bさん、おかずの皿数を間違え、食事が始まって10皿足りない事に気付いたそう。そこはBさんが在庫の納豆等を出して何とかクリア。実はご飯を焦がして炊き直した事もあるとか。

Cさん、セルフサービスのなせる技とでも言おうか。最後になって自分のご飯、みそ汁が無くなったというのが一、二度あったとか。Dさん、実にパーフェクト。何の失敗談も耳に入って来ない。さすが年の功。思い起こせば私も色々やりました。



12月の行事予定

1(土)	11(火)	21(金)大掃除
2(日)	12(水)	22(土)シーツ交換
3(月)	13(木)3・4班レク	23(日)同
4(火)	14(金)	24(月)
5(水)体重測定	15(土)防災訓練	25(火)
6(木)1・2班レク 誕生会	16(日)	26(水)暮れの大掃除
7(金)	17(月)	27(木) ↓
8(土)餅搗大会 保護者会	18(火)	28(金)冬季帰宅 ↓
シーツ交換 帰宅日	19(水)	29(土) ↓
9(日)	20(木)クリスマス会	30(日) ↓
10(月)		31(月) ↓

気がなる

栄養の話題

『目標！食塩一日10グラム』

食塩のとり過ぎは、高血圧症や脳卒中を招く恐れがあるばかりかガン予防のうえからも避けなければなりません。血圧が正常の人でも一日10グラム、高い人は7グラムが目安です。

塩分を無理なく減らすには、麺類の汁は全部飲まない様にしたり、三ツ葉やレモン等の香味や酸味のある食品や香辛料、食物油、鰹節等の出し汁を上手に利用して、塩や醤油等の調味料を控える事です。このように従来の食生活をちよつと変えたり、調理を工夫するだけでも簡単に実行出来ます。

知らず知らずのうちに食塩を取り過ぎない様、外食や身近な食品の塩分含有量の目安を心得ておきましょう。



長友

やろう会十二月の日程

6(木)森川・国本・渡辺こ

8(土)内山・富田・宇都宮・

那須・牛島

13(木)魚谷・上田・上野

20(木)井手上・桜木・元田

いつも、お手伝い御苦勞様です。

さよなら啓三くん

3班で木工作业に！山作業に！活躍してきた啓三くんが、残念ながら九月三十日をもって退所しました。いつもさわやかな笑顔がすてきだった啓三くん、元気でね。

――編集後記――

今日は、珍しく平和な編集日。まだ8時半なのにもう編集後記を書いているなんて……。それに、カットの方も和やかな雰囲気の子か、「こんなにあるの？」といいつつ、サラサラ……。その昔、暖房でも暖まり切れないほど冷え込む夜中、おでんやカップラーメンで胃袋を暖めながら、「えーい、でけんたい」と叫んでキーボードをたたいていた編集員の姿を、横目で見ていた私ですが……。あのころがみよくに懐かしく思える夜です。聖子Ⅱ